

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892000288		
法人名	社会福祉法人 博愛福祉会		
事業所名	ゆとり庵魚住		
所在地	明石市魚住町西岡2142		
自己評価作成日	平成29年11月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成29年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が、住み慣れた地域で「その人らしい生活」が継続出来るよう、おひとりおひとりの希望を聞き取りながら、個別ケアに取り組んでいます。ご利用者様が居宅において、自立した生活を営むことが出来るよう、生活リハビリを通じて自立支援に努めています。

住宅地にあり、デイサービスと併設された事業所である。施設建物は、新しく清潔感があり木彫の家具が配備されている。事業所では、住み慣れた地域で、その人らしく自立した生活を営むことが出来るよう、利用者が職員と共に季節感を採り入れた手づくりの食事づくりを支援する等、一人ひとりの力、好みを活かすよう取り組んでいる。外出支援にも積極的に取り組んでおり、馴染みの場所への同行、地域行事への参加、季節ごとの外出、日常的な散歩や買い物、また、家族の協力を得ながら普段は行けないような所への外出等に努めている。地域との交流にも努めるとともに、「認知症徘徊SOSネットワーク」への登録と訓練への参加等、地域で必要とされる活動や役割を担っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	H29.7に3法人グループが設立し、H29.10の新たな理念が構築されました。「hinode pride」お客様の喜び 社員の喜び 地域の喜び をモットーに職員には理念構築の経緯、理念の説明を行い、共有できるように掲示しています。	本年、日の出グループ設立に伴い、法人理念の日の出Prideに「地域の喜び」、ゆとり庵としての理念に「地域の中でその人らしい生活」という地域密着型サービスとしての意義・役割を明確にしている。日の出Prideを玄関・更衣室等に掲示すると共に、研修等で説明している。介護計画作成時に、地域との関わりを目標に採り入れ、見直し時に振り返りを行っている。事業計画に理念実践のための施策を採り入れ、年度初めのミーティング時に職員に説明し、周知を図っている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様の馴染みの店や行きたいところへの外出支援や、地域行事の参加を行い、交流を図っている。	管理者が「魚住清水地域プロジェクトチーム」に参画し、地域の夏祭り(清水フェスタ)の準備や防犯パトロールに参加している。買い物・理美容・通院等で、利用者と共に地域の社会資源を日常的に活用し、夏祭り等地域行事に参加している。秋祭りには獅子舞の立ち寄りがあり、和太鼓等のボランティアの来訪もある。地域の清掃活動への参加、「認知症徘徊SOSネットワーク」への登録と訓練への参加等、地域で必要とされる活動や役割を担っている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポートキャラバンにて、地域の方に勉強会を行ったり、認知カフェにて、ご家族との交流会を実施している。		

小規模多機能型ゆとり庵魚住

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、利用状況や活動報告を行っている。また、地域の取り組みや情報、意見などを受けています。	利用者・家族・自治会長・民生委員・在宅介護支援センター職員を構成メンバーとして、2ヶ月に1回通所介護と合同で開催している。併設デイサービス職員がオブザーバーとして参加している。家族へ参加を呼びかけているが、参加が困難な状態である。会議では、前回議事録の確認・利用者の状況・事業所の活動状況等の報告を行い、参加メンバーから意見・提案等を受けている。自治会長から地域の高齢者の動向や行事の情報等を受け、サービスの向上に活かしている。会議録ファイルを玄関に設置し、運営推進会議の内容を公開している。	運営推進会議は家族が外部者に意見・要望を表せる機会としての位置付けもあることから、家族の参加が得られるよう引き続き参加を呼びかけることが望まれる。また、構成メンバーに知見を有する者を選任することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題や相談があれば、市の担当窓口や、包括支援センターに連絡をしている。	管理者が播磨西部地区の集団指導、市の研修等に参加し、制度改正等について理解を深めている。福祉的支援を要する利用者への支援方法等についてケースワーカー等と連携を図りながら支援に努めている。法令解釈等で質問や相談がある場合は、市の担当窓口で電話・訪問等で随時助言を受け協力関係を築くよう取り組んでいる。また、「認知症徘徊SOSネットワーク」への登録と訓練への参加を通じて、市との連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本身体拘束は行いません。ゆとり庵部会にて、事業所内での取り組みなどを共有しています。	神戸明石加古川単独事業所年間研修計画（旧ゆとり庵部会研修）を策定し、明石加古川エリアリーダー会議で研修を実施している。研修内容、参加者等については「ゆとり庵部会会議録」に記載している。事業所より職員が参加し、身体拘束排除の取り組み等を学び、事業所での伝達研修は少人数単位で資料配布と説明を行って共有している。身体拘束をしなくても良い方法をしっかり検討し、家族にも予測されるリスクを説明の上、見守りの徹底等により身体拘束を行わないよう取り組んでいる。言葉による心理的な拘束も起らないよう、不適切な事例があれば、管理者がその都度注意と説明を行っている。玄関等は施錠していない。	事業所内での、資料配布を含め伝達研修等実施時は、実施月日・研修題目・配布資料(添付)・参加者等を記録として残しておくことが望まれる。

小規模多機能型ゆとり庵魚住

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		(6)	<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>訪問や送迎時に自宅の状況を確認している。ご家族のレスパイトにも努めている。職員のストレスマネジメントについても取り組んでいる。</p>	<p>虐待防止について、エリアリーダー会議で研修は実施されているが、今回事業所から参加するには至っていない。管理者は、声かけ・シフト調整・随時面談等で、ストレスが少ない職場環境を心がけ、法人としてストレスチェックを実施して、職員の体調やストレス管理に努めている。認知症への関わり方研修等を実施し、介護技術の向上に努めている。送迎時・訪問時等には家庭内の状況に留意し、介護方法の助言等を行って家族の介護負担軽減に努めている。入浴時等の身体状況の観察に留意し、事業所内外での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>エリアでのリーダー研修参加(伝達研修)、事業所内研修等で、必要な研修(虐待防止・権利擁護に関する制度・プライバシー確保等)について定期的継続的に研修を実施することが期待される。</p>
8		(7)	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>関係機関への相談、連絡を行っている。職員については、老人ない研修などで学ぶ機会はあるが、理解については乏しい。</p>	<p>権利擁護に関する制度の理解に向けた研修を実施するには至っていない。現在、成年後見制度を活用している事例があり、職員は、介護計画への同意・定期的な身体状況報告・金銭関係書類の準備提供等の実務を通して学ぶ機会はあるが、理解については職員間に差がある。今後、活用が必要な事例が生じた場合は、実務経験を活かしながら管理者が基幹地域包括支援センターと連携し支援出来る体制はある。</p>	<p>パンフレット等を準備し玄関等に設置してはどうか。</p>
9		(8)	<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、ご本人やご家族の希望や不安な事を聞き取ながら、小規模多機能として出来るサービスの説明を行っている。重要事項説明書に変更があった場合は事前に内容を通知し、書類を交付した上で同意の確認を行います。</p>	<p>見学や自宅訪問時に、パンフレットを用いて、小規模多機能サービスの内容・仕組み・事業所の特長等を説明している。契約時には、希望や不安な点を聞き取ながら、重要事項説明書を中心に、丁寧な説明を心がけている。サービス内容と料金については、その場で個別にシミュレーションを行い、分かりやすく説明している。改定時には、改定の根拠を説明した文書での同意や、「お知らせ」等、改正の内容に応じて適切に対応している。。契約終了時は契約書条項に沿って、移行する施設についての情報提供や、移行先へのサマリー提供等を行い、円滑に移行ができるよう支援している。</p>	

小規模多機能型ゆとり庵魚住

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも相談をいただけるよう、連絡帳の活用や、送迎時に直接話を伺っている。ご家族からの連絡や要望については職員間で共有できるよう申し送りにて周知している。	送迎時、宿泊者への家族訪問時、定期訪問時等に、家族・利用者の意見・要望の把握に努めている。また、連絡・報告ノート、電話等も活用して把握に努めている。運営推進会議への利用者参加に努めており、外部者に意見等を表せる機会を設けている。意見等は利用についての個別の要望であり、朝の申し送り・システムの「相談支援」欄・申し送りノートで情報を共有し、迅速に対応している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者として、現場の日々の様子や職員間の状況などの把握に努め、必要であれば申し送りやミーティングで意見する機会を作る。事業所内で解決できない事は、エリア長に相談したり、月1回エリア会議にて伝える。	管理者は、ミーティング・日々のコミュニケーション・申し送りノート等から、職員の意見・提案の把握に努めている。法人・事業所の懇談会や人事考課制度での個別面談を通じて、意見や提案を聴取する機会を設けている。管理者は、職員や自らの意見等をエリア会議で伝える機会や、事業所に常駐しているエリア長に口頭や電話で伝える機会もある。また、自己申告カードにより、法人本部に伝える仕組みがある。排泄時の誘導タイミングを、タイムリーに把握するための工夫等、職員の提案を運営に反映させている。職員の異動は利用者との馴染みの関係に配慮し、最小限に留めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な職員面談を実施している。正職員については、年2回自身の目標を設定し、自己評価や人事考課を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の奨励、法人内での介護基礎研修、外部からの研修のお知らせなどを掲示、又は個別に参加を勧める。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ゆとり庵部会にて、他事業所との交流や、問題解決のための意見や情報交換を行い、サービス向上のために取り組んでいる。		

小規模多機能型ゆとり庵魚住

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望や不安な事を聞き取りながら、安心して在宅生活が継続出来るよう、サービスを通じて信頼関係を築く。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安に思われることや、要望などを聞き取りながらサービスを導入し、安心して過ごしていただけるようにしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の要望や不安な事を聞き取りながら、安心して在宅生活が継続出来るよう、サービスを通じて信頼関係を築く。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いに寄り添い、望むくらいができるよう支援している。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と同じ立場に立ち、出来るだけ話が出来る機会を作り、関係性が保てるようにしている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別ケアに努め、個人の馴染みの場所や、行きたい所への外出支援を実施している。事業所全体としては、季節ごとの外出行事を行っている。	利用開始時に、センター方式の「本人の良く行く外出先」「近所づきあい、人付き合い」「趣味・信仰」欄等を活用し、家族や本人から馴染みの人や場所についての情報把握に努めている。日々の関わりの中で把握した情報は、システムの気づき・暮らし項目に入力し共有を図っている。馴染みの理美容店・遺跡・寺社や墓参り同行等、馴染みの場所に出かける支援に努めている。教師時代の後輩等、友人・知人の来訪時にはゆっくり過ごせるように宿泊室等を提供し、再来訪を依頼している。また、地域の行事への参加支援を通じて、なつかしい知人に出会う機会づくり等、関係継続の支援に努めている。	

小規模多機能型ゆとり庵魚住

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	孤立することないよう、職員が間に入り、交流の場を 設定している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談や連絡をいただけるような体制作りを している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や表情などの変化があれば、システムを 使用し、職員間で共有している。	利用開始時に把握した利用者・家族の思いや意向は、 「フェイスシート」のご本人の希望欄に記載し、利用 中に把握した情報はシステムの相談連絡の項目に入力 して共有している。介護計画の見直し時には継続的に 把握している。思いや意向の把握が困難な利用者 については、表情・仕草・ジェスチャー等を見逃さ ないよう留意して把握に努め、本人本位に支援方法 を検討している。また、答えやすい質問方法の工夫、 筆談の活用等、個別の方法でコミュニケーションを 図り、適宜介護計画に反映させながら支援に努めて いる。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「個人史」「わたしの暮らし方」を活用し、元気だ った頃と現在の暮らし方の情報を活用している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	作業療法士を基に、自宅環境や心身状態の把握に 努め、チームで共有している。		

小規模多機能型ゆとり庵魚住

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報シートや、日頃の気づきなどからアセスメントを行い、ケアプランを作成している。ケアプランを基に、現場プランを作成し、変化があれば随時見直しを行っている。	「フェイスシート」「センター方式」を活用して、アセスメント・課題抽出・目標設定を行い、初回の居宅サービス計画書を作成している。以降は3～6ヶ月毎に見直しを行っている。計画書を基に、担当職員が作成した「ケアプランシート」「支援手順書」に沿ってサービスを提供し、毎日の実施状況をシステム内に入力し記録している。システム内の項目別実施記録、毎月の全利用者についてのケアカンファレンス結果等を基に、3ヶ月毎にモニタリングを行い、評価を文書化してモニタリング評価表に記録し、次の計画に反映させている。見直しに当たっては、サービス担当者会議の開催、再アセスメントの実施、かかりつけ医等の意見反映を行う仕組みがある。	モニタリング表に継続・変更・中止等評価を明記すること、かかりつけ医等関係者の意見・指示等を把握日と共にサービス担当者会議要点等に記載する仕組み作りが望まれる。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	システムにて、日頃の変化や気づきを共有し、日々のケアを行い、介護計画の情報として活用している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や要望に応じて、柔軟なサービス提供を行っている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の馴染みの店や、行きつけの場所の活用、地域行事の参加など行っている。		

小規模多機能型ゆとり庵魚住

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医を確認し、身体状況により、受診時の付き添い、又は地域連携室を通じて報告・相談を行っている。	利用開始時に、かかりつけ医を確認しフェイスシート・重要事項説明書に記載している。通院は、長期の宿泊者には送迎を支援し、家族の同行を基本としている。自宅からの通院時には必要に応じて、身体状況等をファックスで受診前にかかりつけ医に報告し、適切な医療を受けられるよう支援している。受診結果や薬の内容変更等は、家族から報告を受け、システム内の「医師の指示・処置」の項目に入力し、必要な期間中は赤字で表示されて、情報共有の意識づけができる仕組みがある。職員が通院同行した場合は、電話・連絡帳等で家族に報告している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の体調変化の把握に努めており、変化があればご家族や訪問看護ステーションに報告をしている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や地域連携室の担当者との情報交換を行っている。退院前には病院カンファレンスに参加し、状態把握や住環境整備に努めている。	入院時には、「介護サマリー」を病院に提供している。入院中は見舞いに行き、家族や地域医療連携室など病院関係者と情報交換を行い早期退院に向け支援している。退院前時には、カンファレンスに家族と共に参加し、退院後の住環境の整備や福祉用具の準備に努めている。入院中に把握した情報は、システムの「相談連絡」に入力し、情報を共有している。退院時には看護サマリーの提供を受けて、介護計画書の見直し等事業所での支援に反映させている。	

小規模多機能型ゆとり庵魚住

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期についての説明は行っていない。ご本人、ご家族の思いを聞きながら、他職種で連携を図っていく。	家族等の希望があり、高度な継続的医療的処置を望まない意向があれば、重度化、終末期に向けた支援を行う方針がある。重度化の段階を迎える早い時期に、事業所で出来ること出来ない事等について説明し、家族の意向を確認している。重度化の段階ごとに、家族とかかりつけ医を交えて話し合い、今後の方針を共有し支援に取り組んでいる。確認した意向や話し合った内容は、「相談支援」「会議録」に入力し、訪問看護事業所等との連携を密に図りながら、家族の意向に沿った支援に努めている。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についての研修を行い、初期対応について周知している。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施。夜勤帯を想定した訓練を行った。自治会長を通じて災害時の応援を依頼している。	今年11月に、通所介護と合同で宿泊利用者がいる事を設定して、夜間想定で避難・消火・通報の総合訓練を実施している。入職時に避難誘導方法や避難場所について説明している。夜勤専従職員には、通報装置の操作方法や訓練内容を口頭で伝えている。運営推進会議を通じて災害時に地域の協力が得られるよう依頼している。災害等非常時に備えて、管理者が備蓄責任者となり、数日分の水・食料品やカセットコンロ・排泄用品等を備蓄管理している。	1年に2回以上の実践的な訓練を定期的・継続的に実施することが望まれる。訓練実施時には、実施報告書の作成と消防署への届け出が望まれる。訓練に参加出来なかった職員(夜勤専従者も含め)への、訓練内容・課題等を周知する仕組みづくりが望まれる。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人のプライバシーを損ねないよう、声かけに注意を払っている。	プライバシー確保について、エリアリーダー会議で研修は実施されているが、今回事業所から参加するには至っていない。法人の新人研修で、接遇について学ぶ機会を設けている。利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない配慮や羞恥心の軽減に努めるようミーティング時に話し合っている。気になる対応があれば注意を促し、職員の意識向上に努めている。利用者の写真は使用せず、個人ファイル類は事務所の鍵のかかる書庫に保管し、個人情報の適切な管理に努めている。入社時に守秘義務に関する誓約書を交わしている。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者が決めるのではなく、自己決定が出来るような環境設定を行う。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間やルールにとらわれず、ご本人の希望やペースに合わせている。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや整容など、自身でおしゃれが出来るように支援している。		

小規模多機能型ゆとり庵魚住

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と相談しながら献立をたてたり、一緒に買い物へ行く。食事の準備や調理なども、参加していただいている。	利用者の希望を尊重して献立を決め、手作りの食事を提供している。献立作成時は、日内や週内でのバランスに配慮している。利用者同行で商店・スーパー等へ旬の食材等の買い物に出かけ、野菜のカット・下準備・調理・味見・洗い物・食器拭きへの参加等、利用者の力や好みを活かせるよう支援している。正月・ひな祭り・七夕・クリスマス等には行事食を採り入れて、季節感のある献立を工夫している。利用者の嗜好や当日の体調に応じて、代替え食の提供や食事形態の工夫を行っている。小グループでの外食を楽しむ機会も設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態に合わせて、食事形態を変えて提供。食事や水分量は記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎や虫歯予防の為、食後の口腔ケアを実施。介助が必要な方は、職員にて行う。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ対応の方も、日中はトイレで排泄できるようにしています。	基本的にはシステム内に排泄状況を記録している。必要に応じて、手書きの排泄チェック表を活用してサイン等を見逃さずに前誘導を行い、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。おむつの人も日中はトイレで排泄できるよう支援し、夜間も睡眠に配慮しながら、排泄用品の使用を減らすよう取り組んでいる。トイレ誘導や排泄用品交換時時には、プライバシー、羞恥心に配慮した声かけ・対応に努めている。	

小規模多機能型ゆとり庵魚住

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分接種や腹部マッサージ。それでも困難な場合は、主治医に相談し、下剤を処方してもらっている。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ひとりずつ、ゆっくりと入浴していただけるようにしている。	自宅での入浴状況を確認し、基本的に、週3回、午前・午後に分けて、可能な限り希望の時間帯に入浴できるよう支援している。個浴で、更湯にし、ゆったりと入浴できるように支援している。利用者の身体状況に応じ、座位が保てればリフトを使用して入浴出来る設備もある。異性介助を嫌がる利用者には同性介助で対応している。菖蒲湯・柚子湯で季節を感じたり、好みの入浴剤を楽しむ工夫も行っている。脱衣場でのバスタオルの使用等、プライバシー確保に向け配慮している。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はいつでも休んでいただけるように配慮している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や副作用について情報を共有している。薬の飲み忘れがないよう支援を行っている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味活動や生活活動に参加できるよう支援しています。		

小規模多機能型ゆとり庵魚住

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域行事の参加や、季節ごとの外出支援を行っている。	日常的に、事業所周辺での散歩・食材等の買い物・ドライブ等に出かけている。地域行事への参加や、初詣・花見・あじさい園・コスモス畑・菊花展・紅葉狩り等、季節ごとの外出も支援している。車イス等重度の人も、デイサービスの福祉車両の使用等で、利用者の状況に応じた移動に配慮し希望にそって戸外に出かけられるよう支援に努めている。淡路島の奇跡の星植物館等、普段は行けないような場所でも、家族の協力を得ながら外出できる機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出先でのお土産の購入など、自身でお金を払うよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば、いつでも電話をかけていただきます。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のぬくもりを感じてもらえるような家具の選定。またリビングや畳など、家の雰囲気に近い環境で、居心地よく過ごしてもらっている。	施設建物は、新しく清潔感があり木彫りの家具が配備されている。共用空間は畳敷きコーナーがあり、ソファ・テーブル・椅子等を適所に配置し、利用者が思い思いに居心地良く過ごせるよう配置している。食事づくりの音や匂いが利用者の五感を刺激し、家庭的な雰囲気が漂っている。過度の装飾は行わず、季節の花や七夕の笹飾り・クリスマスツリー・鏡餅など季節ごとの飾り付けを行っている。次亜塩素酸を使って加湿を行い、感染予防にも努めている。	

小規模多機能型ゆとり庵魚住

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの共有スペースやソファにて、ゆっくり過ごしていただいている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の生活用品やなじみのものを持参され、使いやすいよう工夫をしている。	泊まりの部屋は9室あり、ゆったりした広さがある。ベッド・タンス・エアコンが設置され、除菌を兼ねた加湿器も設置されている。利用者の生活習慣や希望を採り入れ、畳敷きになっている部屋もある。座布団・ぬいぐるみ・毛布・タオルケット等、馴染みのものや使い慣れたものを持ち込んでいる利用者もあり、自宅に近い生活環境でゆっくりと寛げるよう配慮している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮した上で、自身の残存能力をいかし、出来る事は自身で行ってもらえるよう支援している。		